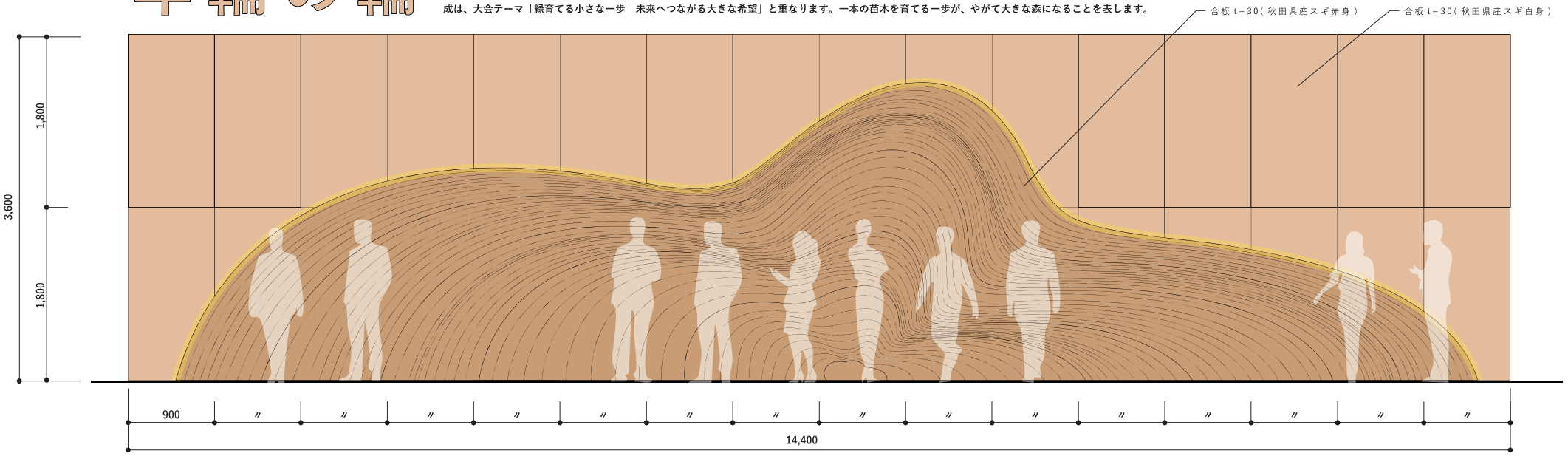
# 年輪の輪

## コンセプト

秋田スギの年輪を 50 本の曲線で描き、第 50 回大会を表すバックパネルです。中心の小さな芯から外へ広がる年輪で、中心の小さな芯から外へと広がる構成は、大会テーマ「緑育てる小さな一歩　未来へつながる大きな希望」と重なります。一本の苗木を育てる一歩が、やがて大きな森になることを表します。

### バックパネル正面図　S=1/200




## コンセプト

### 1. 50 本の年輪＝50 回の大会

年輪の数を 50 本とし、第 1 回から第 50 回までの育樹祭の積み重ねを表します。年ごとに幅が違い、縁にムラのある年輪は、それぞれの大会が異なる土地と人によって育まれてきたことを示します。


秋田スギの年輪

### 2. 曲げわっぱとの親和性

会場のある大館市は、秋田スギを薄く削いで曲げる伝統工芸「大館曲げわっぱ」の産地です。曲げわっぱの側面に現れる柾目の美しさと、丸や楕円の形を、年輪の曲線とパネルの輪郭に重ねます。


曲げわっぱ

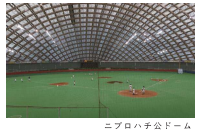
### 3. 秋田県内の山々との親和性

秋田県内には太平山、鳥海山、森吉山など多くの山々が存在します。山から多くの恩恵を授かる秋田の土地や文化を連想させるため、山の想起させる造形にします。


森吉山

### 4. 会場・ニプロハチ公ドーム（大館樹海ドーム）との親和性

秋田スギを構造に用いた楕円形の木造ドームという会場の特徴を受けて、年輪も真円ではなく、少し偏心したやわらかな楕円としています。ドームの曲面とパネルの曲線が呼応し、会場全体で木の空間をつくります。


ニプロハチ公ドーム

## デザインと造形

### 1. 年輪の曲線

- **年ごとの幅**：輪の間隔は年ごとにばらつ内側ほどやや広くなります。
- **縁のゆらぎ**：輪の形は真円ではなく、ゆるやかに波打ちます。そのゆらぎは次の年へ少しずつ受け継がれます。
- **節目の年輪**：第 10・20・30・40・50 回にあたる 5 本を太く彫り、大会の節目を表します。

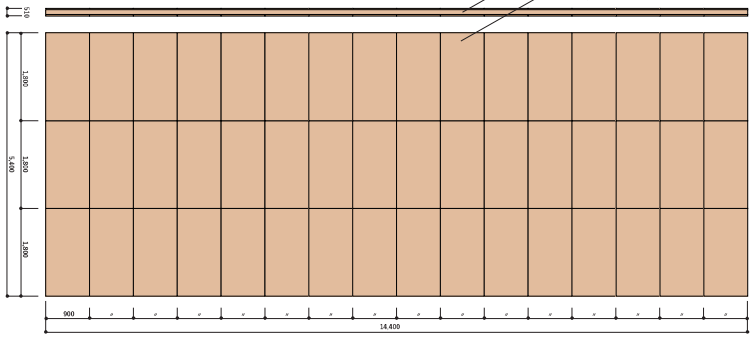
### 2. 素材

秋田県産スギの合板（厚さ 30mm）を使います。前面に赤身のスギ材合板を、後面に白身のスギ材合板を使用します。表面のスギ単板の木目をそのまま見せ彫った溝の斜面には合板の層が細い縞として現れます。一枚ごとに木目が異なるため同じ年輪でも場所によって表情が変わります。

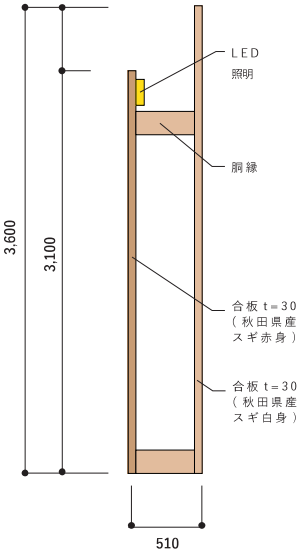
### 3. 彫り込み（CNC 加工）

年輪の曲線をベクターデータにし、CNC ルーターで溝として彫ります。刃は先端が V 字の 90° V ビットを使い、10 年の節目の年輪は彫り幅 10mm で、通常の年輪は彫り幅 6mm で掘っていきます。

### バックパネル及びステージ平面図　S=1/500




### バックパネル断面図　S=1/200




## 式典後の活用

### 1. 広場などのデッキ

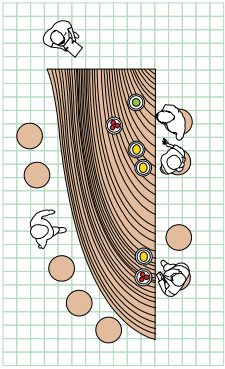
パネルを床板として並べ、年輪の模様がつながる記念デッキにします。屋外で使う場合は、彫りの溝に水や汚れがたまらないよう、浅彫りか、彫った面を側面・天板側に限る使い方を検討します。

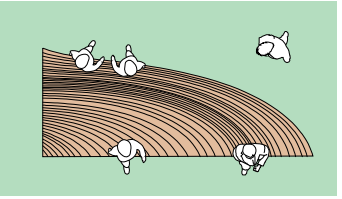
### 2. テーブル

分割パネルを天板にし、年輪の一部が刻まれたテーブルとして活用します。秋田にちなんだデザインと素材ということで、公共施設や学校、飲食店での使用を想定しています。

### 3. ベンチ

合板を重ねて厚みを出し、座面と脚を兼ねたベンチにします。座面が広いため、駅や公園などの公共空間に設置することで、多くの人が一度に座ることができるベンチとして活用できます。


テーブルを活用した平面図イメージ


ベンチを活用した平面図イメージ